

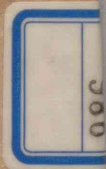
山梨養蠶協會報告

第參號

明治十七年十二月廿五日刊行

無定期

禁賣買



山梨養蠶協會報告第參號

○本會要錄

本年三月三十日定期談話會ヲ西山梨郡甲府錦町ノ本會事務所ニ開ク來會セル者五十餘名午後一時藤村會長臨席本會將來ノ目的方法等ヲ演述セラレ參會者一同ニ義捐金例則チ頒與ス次テ普ク會員ニ通知シ置キタル宿題蠶兒掃立ヨリ初眠起迄ノ取扱ニツキ各自交實踐セル所ノ談話ヲ爲シ了リテ會員宿澤清實氏奥州流養蠶法ノ談話同潮田辰一氏ノ桑園土分析實驗講義等アリテ午後六時散會セリ

○
本年七月三十一日定期談話會ヲ甲府錦町ノ本會事務所ニ開ク時恰モ酷暑燬シカ如キニモ拘ハラズ數里或ハ十數里

ノ遠キヨリ來會セシ者凡テ四十二名ナリ今當日談話ノ要領等ヲ左ニ錄ス

○七月三十一日午後二時開會

出席會員四十二名

幹事青柳直道氏本日藤村會長ニハ事故アリテ臨席セラレ難ク依テハ主務幹事ニ於テ代理ヲ爲スヘキ規則ナレト該任渡部君公務ニテ出京中ニ付據ナク不肖直道會長ノ代理ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘ各會員ノ炎暑ヲ冒シテ來會ノ勞ヲ謝ス又今會ハ役員改撰ノ期ナレハ先ツ之ヲ了リ然ル後談話ニ移ルヘキ旨ヲ告ク

廿六番(馬場豹五郎)曰役員ノ改撰ハ別ニ投票ヲ要スルニ及ハス現任ノ儘續任ノ事ニシテ可ナラシ十一番(田中武平

太)七番(中田亮平)十六番(金子俊輔)等之ヲ贊成ス

九番(森茂美)曰廿六番ノ說ハ至極簡便ノ考ナレト前會役員撰舉ノ時ヨリハ會員ノ新加セル者夥多ナルヲ以テ改撰スルヲ可トス十八番(村上是茂)亦續任ノ不可ヲ說キ九番ノ說ヲ贊成ス廿四番(坂本澄造)又之ニ同意ス

右廿六番(馬場豹五郎)ノ說ニ同意者ヲ起立セシム起立九名ノミ少數ニ付消滅乃チ改撰ノ投票ヲ爲セシニ其當撰者左ノ如シ

會長

一三十五點

藤村紫朗君

幹事

一三十點

八卷九萬君

右畢テ幹事村上是哉氏創設以來一周年間經費收出ノ計算
報告ヲ爲シ且會費未收入多キニ苦シム趣旨ヲ述フ此時會

一全	金丸平甫君
一全	村上是哉君
一全	八田達也君
一全	青柳直道君
一二十八點	木内信春君
一二十七點	田邊有榮君
一二十六點	渡部省三君
一十八點	牛田八郎君
一十六點	青柳行忠君
一全	細田文藏君

長代理青柳直道氏ハ意見アリトテ三十七番ノ會員席ニ就
シ幹事村上是哉氏會長ノ席ニ上ル

三十七番(青柳直道)曰只今村上君ノ報道セラル、如ク會費
未收入ノ多キハ實ニ本會ノ困難ナリ殊ニ借入金ニ對シ
テ利子ヲ拂フガ如キノ最モ不經濟タルハ喋々チ俟タス
此ノ如キ有様ニテ荏苒歲月ヲ送ラハ本會ハ到底維持ニ
困シムノ場合ニ至ラン乍去會員出ス所ハ年々僅カニ五
十錢ノ小額ナレハ敢テ其多キチ厭フカ爲ニ遷延スルニ
非ラス蓋シ恐ラシハ會員送付方ニ手數ヲ要スルカ爲メ
議ラス知ラス未納ニ屬スル者多キナルヘシ故ニ本員ノ
考ヘニテハ各郡ニ世話掛ニテ會員中若干名ヲ置キ其人チシ
テ會費ノ集金等ヲ爲スヲニセハ大ニ彼此ノ便チ與ヘ必

ス容易ニ徵集シ得ラルヘシト信ス依テ規則中ニ右ノ箇
條ヲ追加センコトヲ希望ス又之ヲ衆議ニ付セラレノコトヲ
建議ス五番(奥脇利右衛門)等之ニ同意ス三十番(長坂福太
郎)又之ヲ賛成シ且人員ハ一郡四人位ヲ可トスル旨ヲ述
ブ

三十七番(青柳直道)曰人員ハ各郡會員ノ多少ニモ關スルカ
故ニ其撰任并ニ人員等ハ渾テ會長ノ指定ニ依ルヘキコ
ニ致シ置カハ可ナラン

右三十七番ノ説ニ同意者ヲ起立セシム起立滿場乃チ規則
中ニ追加ヲ爲スコトニ決ス是ヨリ談話ニ移ル

○第一 四眠起ヨリ收購迄ノ取扱

三十四番(小森將英)曰余ハ本年公費ヲ以テ福島縣ニ至リ伊

達郡掛田村菅野平右衛門氏ニ就キ飼養法ノ傳習ヲ受ケ
リ故ニ今其實地ニ施行セル所ヲ述フヘシ蠶兒四眠已ニ
九分ノ五許リモ起キタルキ前々日ヨリ蓄ヘ置キシ桑葉
チ一様ニ薄シ與ヘ四時間ヲ過キ又少シ厚ク給シ直チニ
琉球網ヲ掛ケ桑ヲ荒ラ切ニ爲シ與ヘテ除砂ス藪坐ハ而
殖サス
シテ二日間ハ切り桑方言大切ト云フニ爲シ箕ニテ吹キ
眞ノ葉許リヲ與ヘ三日目ヨリ枝桑ヲ與フ此時ヨリ二日
間ハ一日一回ツ、除砂シ三日目ヨリ熟蠶マテハ朝ト夕
ト日ニ二回ツ、除砂ス又給桑ノ度數ハ四眠後一日ニ六
回ツツ、トス熟蠶ノ期ニ至レハ藪坐ノ端ニ出ルヲ拾テ
上簾ス桑付ヨリ七日目ニ口引方言ナリ最初
ノ熟蠶ヲ云フ八日目ノ夕方
ニ凡ソ七分九日目ノ朝ニ至テ悉皆熟蠶ス上簾ノ法ハ木

鉢ノ漆ヲ塗リタルモノニ拾ヒ暫時^上籐^マ間^ノ藺^ゴ筵^ザノ上へ擴
 ケ置キ蠶ヲシテ糞ヲ爲サシメ復々盆ニ入レ一簇目方凡
 ソ三百六十目ヲ入ル簇中ハ冷暖ニ拘ハラズ裏板下^入井
 根裏トヘ揚ケ決シテ下ニ置クナシ其所以ハ寒暑トモ
 簇ハ上部ニ非カレハ害多キヲ以テナリ爾后五日目ニ至
 テ口引ノ分ハ靜ニ簇ヲ下シ風ヲ入レ六日目ノ朝ヨリカ
 キ落スヲ法トス

二十六番(馬場豹五郎)問フ四眠起後ノ温度ハ如何

三十四番(小森)答フ四眠後ハ凡ソ七十度ヲ目的トス然レモ
 霖雨或ハ甚クシキ冷氣ナル時ハ焚火ヲ爲スナリ己ニ
 昨年ノ如キハ四眠後冷氣ナルニ因リ十二日ニシテ熟蠶
 ニ至リシモノアリト聞ケリ

三十五番(丸山祖右衛門)問フ四眠後幾許カ病蠶アリシヤ

三十四番答フ四眠後ニ至リ他ニハ往々頭スキ等ヲ出スト
 ノコナレモ本員ノ飼養セシモノニハ病蠶ヲ見ス又問フ
 其邊ノ原種ハ自製ナリヤ將タ他ヨリ求ムルヤ答フ菅野
 氏ニテハ祖先ヨリ年來自製ニシテ他ヨリ購入スルコトナ
 シト云ヘリ又問フ其地ノ養蠶家ハ重ニ糸繭ナリヤ又製
 種ナリヤ答フ掛田ハ製種家ハ僅ニ十名許ニ過キス餘ハ
 皆ナ糸繭飼ナリ

二十七番(竹居迨)問フ一日六回ノ給桑ハ其時刻如何

三十四番答フ四眠後ニ至レハ午前四時二十分頃東方白シ
 其時々候暖ナレハ直ニ與ヘ寒ナレハ少シ延ハシテ與フ
 次ハ午前九時午後一時同四時夜ニ入リテ八九時頃翌午

前一二時頃都合六回ナリ又問フ籐ノ寸方様式ハ如何答
フ籐ハ悉皆藁ニテ造ルナリ拭丈ケ五尺四五寸横三尺一
二寸位ノモノヲ横ノ兩端四五寸許ヲ立テ之ニ繩ヲ付
ケ其中ヘ「カンナマブシ」ナル藁ヲ輪ニシタル如キモノヲ
一通リ六七個ツ、十四通り置キ而シテ横繩ヲ締メ豫メ
附置キタル堅ノ繩ト結ヒ合セ之ニ熟蠶ヲ容ル、ナリ」又
問フ三百六十目ノ熟蠶ハ其數幾許アリヤ答フ青質ナレ
ハ平均四百二十許赤引ナレハ三百ヨリ三百二十許ナル
ヘシ又問フ玉繭ハ其割合如何答フ繭壹貫目ニ付玉繭百
四十目即チ一分四厘ノ割合ナリ
二十六番(馬場)問フ上籐中寒冷ナルトハ如何ナスヤ
三十四番答フ然ルキハ炭火チ一室中一二ヶ所ヘ置クナリ

二十番(富田德音)問フ一藁坐ノ蠶數ハ幾許ナリヤ
卅四番答フ四眠後赤引ハ四百頭青引ハ四百五十頭位ナリ
三十八番(小野元兵衛)問フ一藁坐ニ付一日給桑ノ量ハ如何
三十四番答フ給桑ノ量ハ日々ノ寒暖ト虫ノ強弱トニ依ル
コナレハ豫メ定量ナシ故ニ桑量ヲ掛ケタメスコナシ
十番(林平八郎)問フ一人夫ニ付收繭何程ナリヤ
三十四番答フ本年飼養スル所ハ原種一枚ニ八十二人半ヲ
要シ繭十八貫四百目ヲ獲タリ尤モ此外ニ少シハ桑苧ヘ
等ノ手傳ヲ受ケタルコアリ
四番(鈴木丑助)問フ給桑ヲ爲スル殘桑アリヤ如何
三十四番答フ桑ハ食ヒ盡サレハ給セス尤モ人ノ心持モ
ツマツタ様ナ温氣ノトニハ餘桑アルモ亦給ス

三十番(長坂福太郎)問フ極熱ノキニ焚火ヲ爲スハ如何
 三十四番答フ四眠後ハ大抵天井ヲ開キ置クモ尙ホ温熱ノ
 籠ルキハ焚火ヲ爲シテ烟ト共ニ室内ノ熱ヲ驅ル此時ハ
 北窓テ少シ開クヲ要ス又極熱ノキハ北窓ハ常ニ明ケ置
 シナリ

三十二番(中村重光)問フ種繭ト糸繭トニ飼養上區別アリヤ
 三十四番答フ敢テ區別アリト云フニ非ス只糸繭飼ナレハ
 一藁坐ニ蠶數六百頭モ入ルハナリ即チ二百頭許多シ而
 シテ除砂ノ如キモ種繭ナレハ毎日スヘキヲ隔日位ニス
 ルノ相違アルノミ

十四番(田中義事)問フ蠶種一枚ノ收繭ハ幾許ナリシヤ
 三十四番答フ毛蠶三匁八分ニテ十八貫四百目
 京一升ノ量
 百二十九目

ニテ繭數二ナリ又問フ蠶室ハ二階ナリヤ答フ二階ニモ
 百六七粒
 非ス下ニモ非ス上下ツキ通シナリ一日一回ツ、上下ヲ
 交換ス又問フ天井ハナキヤ答フ天井ハ上二階ト云フ所
 ナリ二階ハ足塙板ヲ置クナリ又問フ一枚掃ノ場所ハ幾
 許ヲ要スルヤ答フ一枚ノ原種ハ藁坐凡ソ八十枚トナル
 故ニ一ト通り二十枚揚ケナレハ四通り二十三枚揚ケナ
 レハ三通り半ナリ

二十五番(細田榮治)曰余ハ本年聊カ經驗セル所ヲ述ヘンニ
 熟蠶ノ頃ニ至レハ棚ノ上下ニ因リ五度位ノ違ヒアリ又
 熟蠶トナル上ハ何所ヘ置クモ差支ナキヤ否ヲ試験セン
 爲メ熟蠶ヲ六十度七十度八十度ノ三所ニ區別シテ置キ
 シニ八十度以上ノ所ハ糸ヲ充分ニ吐キ盡シ七十度以上

ノ分モ亦殆ント同様ナリシカ六十度ノ所ニ至テハ糸ヲ
 半分位吐キシノミニテ十分ニ造繭セルモノ少ナク最初
 健蠶ト思ヒシ蠶兒モ儘造繭セスシテ躑レタリキ之ニ依
 テ考フルキハ上簇ハ成ルヘク温度ノ高キ所ヲ可トス冷
 氣ニシテ六十度位ナルキハ必ス火力ヲ借ルヘキナリ
 三十八番(小野元兵衛)曰余ハ年來施行スル所ノ飼養法ヲ述
 フヘシ四眠ノ起ルキハ細桑ニテ桑付ケ三四時間ヲ過キ
 テ又給シ桑付ヨリ二日目ノ午后四時頃分坐ス尤モ蠶數
 ナ千ト定ム一枚ヲ數ヘ餘ハ之ニ倣フテ厚薄ナキ様ニス
 而シテ温度ハ天然育ニテ凡ソ七十度ヲ目的トス三日目
 ヨリハ枝桑ヲ與フ其量ハ度々衡ニ掛ケルヲ常トス三日
 目ニハ一枚ニ付五百目ノ桑ヲ四回與ヘ四日目ニハ七百

目五日目ニハ九百目六日目ニハ壹貫百七十目ヲ各四回
 ニ與フ而シテ八日目ノ午前十一時頃熟蠶セリ此日ハ百
 六十目ツ、二度給セリ尤モ此桑葉ヲ量ルニハ凡ソ三十
 個程ノ爪ヲ拵ヘ置キ之ニ桑ヲ入レ一枚分ツ、掛ケ計リ
 テ與フルナリ除砂ハ二日目ヨリハ毎日一度ツ、トス給
 桑時刻ハ午前六時十一時午後四時十一時ノ四回ナリ又
 熟蠶ノ片種繭ト糸繭トナ區別ス種繭ハ一ツ拾ヒニシテ
 十分熟セルモノヲ取リ糸繭ハ足ノ輕クナリタルモノハ
 殘ラヌ上簇ス

三十四番(小森將英)問フ桑ヲ給スルニ一枚分ツ、掛ケ量ル
 トノコナレモ其掛ケ場ヨリ給スル所マテ一々爪ニテ運
 搬スルハ甚タ手數ヲ要スル様思ハル是ニハ便法アリヤ

三十八番答フ小供ヲシテ運ハシム年來經驗スルニ多數ノ
 養蠶ヲ爲スニハ一枚分ツ、掛ケ計リテ與フル方大ニ便
 利ナリ何トナレハ桑ヲ運フニハ手數ナレト給桑上大ニ
 抄取レハナリ又問フ定温度ニ非サルニ桑ノミ分量ヲ定
 メテ與フルハ室ノ南北等ニ因テ差異ナキヲ得ンヤ答フ
 余ハ蠶種ヲ製スルヲ以テ數種ノ蠶ヲ飼養ス故ニ其種類
 ニ依リ桑ノ進ミニ良キモノト惡シキモノトヲ計リ室内
 ノ冷温ニ應シテ位置ヲ定ムルヲ以テ大抵同量ノ桑ニテ
 差支ナシ

二番(中澤左傳次)問フニハ後ニ至リ腐敗ノ蠶出ルコトアリ
 之ヲ究理セラレタルコトアリヤ

三十八番答フ別段究理シタルコトナシ時ニ依リ二三ノ腐敗

蠶ヲ見ルコトアレトモ其原因ヲ知り難シ

四番(鈴木丑助)曰余カ飼養スル所ハ桑付ケ三度目ニ出テ分
 ケ一枚凡ソ八百頭トス温度ハ七十四五度ナレトモ外氣八
 十三四度ニテ室中七十五度ニモ至ルトキハ松葉ヲ焚テ
 空氣ヲ交換ス又熟蠶ニ至テ手數ヲ掛ケサル爲ニ熟蠶見
 コレハ切桑ヲ與フ然レハ蠶兒横手ヲ掛ケス兀糸ヲ張ラ
 義且又筵ノ裏ヲ用フレハ糸ヲ張ル所ナシ而シテ筵ノ中
 央ニ居ル熟蠶ニハ手ヲ附ケス端ニ出テタルモノハミ益
 ニ拾ヒ取テ筵ニ揚シル大抵桑付ヨリ八日目ノ四時頃ヨ
 リ熟蠶ヲ顯ハシ九日目ノ午后四時頃マテニハ引キ了ル
 ナリ其夜ハ八十度位ノ温度トナシ一夜ニ薄籠リニセシ
 ム

三十八番(小野元兵衛)問フ蠶ノ種類ニ依ラス渾テ切桑ヲ與
フルヤ四番答フ種類ニモ種ニモ糸ニモ拘ハラズ渾テ然
カスルナリ

三十八番曰余モ本年切桑ヲ試験セリ然ルニ種繭ニハ殊ニ
良シ其故ハ種ニハ充分熟スルヲ可トスレハナリ小石丸
其他ノ種類ノ糸繭ト爲ス分ハ少シ若カ熟ヲ可トス此分
ニハ切桑ヲ給スルニ及ハス

二十四番(坂本澄造)曰舍利病ノコトニ付聊カ經驗ノ説ヲ述
ヘン最初二三ノ舍利病蠶アルニ翌年ハ一分モ二分モ
同症ヲ發スルモノナリ之ヲ豫防スルニハ掃立ヨリ毎朝
青松葉ニテ室内ノ暗キ程薫フレハ其年ハ必ス該病蠶ヲ
出スヲ稀レナリ而シテ三年モ此法ヲ行フニハ病源ヲ絶

ツニ至ル可シ

二十三番(渡邊利重)曰余モ本年福島縣ニ至リ山戸田村丹治
梅吉氏ニ就キ飼養法傳習ヲ受ケタリシカ四眠後ノ取扱

ニ至テハ三十四番ノ説ニ異ナル所ナシ故ニ贅セス
三十四番(小森將英)曰四眠後ハ蠶糞ヲ去ル都度濕氣ヲ除ク

ト最モ緊要ナリ毎朝籠坐ヲ日蔭ニ干シ又充分之ヲ打チ
一蠶糞モ附着セサル様ニ爲シテ能ク乾カシ置キ午後三
時ノ除砂ノ用ニ供ス

四番(鈴木丑助)曰會員中切桑ノ説アリ奥州ニテモ熟蠶凡ソ
七分ニ至リシ頃ニハ此法ヲ用フ即チ百枚ノ籠坐上簇シ
テ三十枚トナリシ時ヨリ切桑ヲ與フルナリ

右第一問題ノ談話既ニ盡キタルニ十八番村上是哉ハ蠶蛆

ノ最モ恐ルヘキ所以ヲ細説セリ

○第二 繭貯藏法

三十四番(小森將英)曰繭ノ貯藏法ハ最モ困難ナルヲニテ本年ノ如キ多數ノ繭ヲ買入レタル者ハ往々微繭ヲ出シタリト云フ注意ヒサル可カラズ福島縣伊達郡邊ニテ行フ所ノ殺蛹法此法ヲ爲ス前ニ上繭、玉繭、死繭、薄大陽干シ粒一並ヘニ紙ヲ蔽ヒ蒸殺セ繭ヲ入レタルモノヲ釜ノ上ニ載四日モ干ス片ハ宜シ蒸殺セ適度ノ蒸熱ヲ與ヘテ殺蛹ス焙殺ノ三アリト雖モ就中焙殺ヲ以テ良法トス其法ハ高サ六尺幅八尺長サ一丈余ニシテ明リテ取ルヘキ爲ニ硝子窓ヲ附ケタル土藏ヲ造リ之ニ徑二尺二三寸ニシテ細カキ目ノ籠五升許ヲ入レタルモ凡ソテ幾個ナリトモ入レ

温度ヲ百六十度位ニナシ凡ソ七時間置クナリ其加減ハ豫メ桑ノ青葉ヲ籠中ニ入レ置キ其粉末ニナルヲ適度トス又温度ヲ百九十度位ニナスキハ四時間ニテ充分蛹ノ死スルニ至ルト云フ然レトモ時間ハ長キモ温度ノ低キヲ可トス而シテ殺蛹ノ終リタル繭ハ土用前レハ二枚ヲ一枚ニ合スルナレハ一粒並ヘニレテ時々之ヲ搖動シ勉モ妨ケナシメテ蛹ノ一所ニ居ラサル様ニス可シ

十八番(村上是哉)曰余ハ勸業製糸所ニ在リテ備サニ繭貯藏法ノ困難ナルヲ知ル依テ一二ノ鄙見ヲ述ヘンニ先ツ繭ハ搔キ落スキニハ成ルヘク粗糸ヲ存シ置キ其製糸ニ先ツテ之ヲ取ルヲ可然ルキハ光澤及ヒ繭ノトス何トナレハ此粗糸ハ蠶カ自巢ノ保護ヲナス爲ニ張ルモノナレ

ハナリ又藪ヲ撰別スルハ死籠リヲ除クヲ最モ緊要トス
 而シテ殺蟪法ハ三十四番ノ述ヘラレタル三法ノ外ニ藪
 殺法アリ此間大陽ニ干スノ法ハ大ニ不可凡テ殺蟪ノ法
 ハ水分ノ能ク上散スルヲ肝要トス又右數法ノ内燥殺法
 温度百五十度ニテ八時間ヲ經タル後ヲ以テ最モ良トス
 切斷ノ之ヲ見シニ毫モ水分ナカリキ
 三十四番又曰菅野平右衛門氏ノ如キモ久シク貯藏スヘキ
 藪ハ粗糸ヲ取ラサル様ニス又一度焙殺シタルモノヲモ
 再ヒ百二十度位ノ温度ニテ燥カスコアリ
 此時既ニ午后六時ヲ過ク依テ談話ハ茲ニ止メ更ニ會員携
 帶セル所ノ藪ニ付互ニ品評ス然レモ最早其審査ヲ爲スヘ
 キ時刻ナキヲ以テ之ヲ他日ニ譲リ午後七時一同退散ス

○義捐金

義捐金例則第一條ニ依リ本會へ義捐セシ會員ノ姓名並ニ
 金額ハ左ノ如シ

一金貳百圓	(一時義捐)	藤村紫朗
一金五圓	全	清水市右衛門
一同	全	内藤はる
一金五拾圓	(分納義捐)	八卷九萬
一同	全	渡部省三
一同	全	青柳直道
一同	全	八田達也
一金六拾圓	全	青柳行忠
一金三拾圓	全	河口傳右衛門
一金貳拾五圓	全	河口藤作
		村上是哉

一金貳拾圓 全 木內信春
 一金拾圓 全 中田亮平
 一同 全 園部忠
 會長ヨリ右ノ諸氏へ謝狀ヲ送レリ

○明治自十六年四月會費收支精算

一金百拾圓拾貳錢 收入高

內譯

金六拾圓 會費受入
 金拾圓 會費元資受入
 金拾圓 捐資受入
 金三十圓拾貳錢 借用金

一金百三圓九十四錢一厘 支拂高

內譯

金四十九圓八十七錢九厘 印刷費
 金二十四圓五十四錢 備付品買上代
 金貳圓五十五錢二厘 需用品買上代
 金七圓八十五錢 郵便稅
 金拾九圓十二錢 舊假事務所經費

差引

金六圓十七錢九厘 現金七月一日へ繰込高
 右之通相違無之候也

○新加會員

本年三月ヨリ十一月ニ至ル入會員ノ姓名並ニ郡村別ハ左ノ如シ

東山梨郡

小佐手村 坂本澄造 松里村 相澤周平

同 佐藤臣恒 岡部村 渡邊利重

同 岩佐才市 同 菅沼周平

柚木村 雨宮喜重郎 同 島田理重

同 日原政重 同 標多重朗

七里村 村田國吉

西山梨郡

住吉村 田中森吉 甲府山田町 名取雅樹

清田村 丸山祖右衛門 同錦町 福原鐵之助

同 淺尾長慶

東八代郡

相興村 田村義事 下曾根村 長田準平

同 早川邦直 下黒駒村 柴宮ちか

同 三枝良甫 同 永田周吉

同 鈴木丑助 同 神坐秀三

同 三枝周吉 藤壘村 中澤左傳次

富士見村 嘉納詳 米倉村 早川善哉

大野寺村 荻野民久 大野寺村 平井禮清

御代咲村 降矢常右衛門

南巨摩郡

都川村 辻平造 五箇村 秋山秋定

中巨摩郡

稻積村 田中元七郎

北巨摩郡

津金村 小森將英

龍岡村 千野金三郎

南都留郡

福地村 中澤多五右衛門

瑞穂村 奧脇利右衛門

北都留郡

丹波山村 酒井嘉一

計四拾壹名

○客員

小淵澤村

赤松勇太郎

瑞穂村

渡邊孝治

東京麴町區筆町
長野縣小縣郡上田常盤城村
死亡

佐々木長淳
安原久太郎

北巨摩郡小淵澤村

赤松龜作

通計二百九拾九名

他府縣客員拾三名

會員郡別

東山梨 百 名

西山梨 三拾三名

東八代 六拾六名

西八代 七 名

南巨摩 拾七名

中巨摩 二拾壹名

北巨摩 二拾九名

南都留 七 名

北都留 拾九名

○雜錄

○本縣勸業課より試育の爲め福島縣伊達郡山戸村丹治伊右衛門氏製造の赤引蠶種一葉を本會へ下附せられたり

○藤村會長には福島縣下伊達地方の構造に倣ひ七間半に二間半の蠶室を甲府橋町に新築せられたり

○會長より本年八月主務幹事を村上是哉氏に依頼せらる

○幹事八田達也氏は本年春蠶の期に際し伊達郡の養蠶法に據り原種九枚を飼育せしに頗ふる好結果を得たりとて該日誌を印刷し其數百部會員一般に頒を本會へ寄贈せりたんが爲め

○客歲縣廳より福島縣下の蠶事見習ひの爲め東山梨、東八

代、西八代の三郡より生徒各一名を派遣せられたりしが本年亦東山梨郡岡部村渡邊利重(會員)、南巨摩郡陸合村清水光明、中巨摩郡西野村笹本佐太郎、北巨摩郡津金村小森將英(會員)、北都留郡甲東村和智武一の五氏を同地へ差遣はされしと云ふ

○遠州製蘭網の便利なることは世の人の能く知る所なり故に之を需求せんと欲する者には本會に於て紹介すべきに付其旨申出らるべし但代價は藥坐用一枚二錢信州籠用同壹錢八厘なり

○本會に於て精良と認むる赤曳複製種四十葉代價ハ壹葉金壹圓五十錢會員中に所持の者あるに因り該種の購求を欲する方は本會事務所に申出らるべし

山梨縣西山梨郡甲府錦町二番地農事講習所内
 發行所
 山梨養蠶協會
 持主 青柳直道
 編輯人 諏訪高治
 印刷人 相原竹雄

發行所

山梨縣西山梨郡甲府錦町二番地農事講習所内

山梨養蠶協會

持主 青柳直道

編輯人 諏訪高治

印刷人 相原竹雄

發行所

山東省立圖書館

山東省立圖書館

經理人

副經理人

主任

群馬県立図書館



0495486-3

小野寺文庫